

# 株主のみなさまへ

---

## 第3期中間決算のご報告

平成18年 4 月 1 日から  
平成18年 9 月30日まで



株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

## ごあいさつ

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、ここに第3期中間期（平成18年4月1日から平成18年9月30日まで）の事業の概況ならびに決算状況をご報告申し上げます。

当中間期におけるわが国経済は、好調な企業業績を背景に設備投資が伸長し、また、雇用、所得環境の改善に伴う個人消費は底堅く推移いたしました。一方、依然として原材料価格が高止まり傾向にありますことや米国経済の減速懸念もあり、景気は緩やかな上昇基調ではありますものの、先行きは楽観できない状況となりました。

このような経営環境のもと、経営統合第3期目となった当社グループでは、昨年度に取り組みました「構造改革計画」による経営合理化や効率化推進の成果を踏まえ、グループの新たな成長に向かって「第一次中期経営計画」を策定し、具体的な取り組みを開始いたしました。

当中間期の連結売上高は、国内市場では自動車電池が微増にとどまりましたものの、産業電池および電源装置が好調に推移いたしましたこと、また、海外関連会社を含めて販売価格改定の効果が現れましたことなどにより、1,207億50百万円と、前中間期に比べて81億97百万円（7.3%）の増加となりました。

利益面につきましては、売上高の増加に伴う利益の貢献がありましたこと、また、人件費をはじめとした経費の減少など、前年度に取り組みました構造改革計画の効果が伸長したことに加えて、第一次中期経営計画への取り組みを推し進めたことなどにより、収益力が高まりました。これらの結果、当中間期の連結営業利益は11億22百万円と、前中間期に比べて18億30百万円の増加（前中間期は7億8百万円の損失）となり、連

結経常利益は10億99百万円と、前中間期に比べて19億94百万円の増加（前中間期は8億94百万円の損失）となり、いずれも黒字に転換いたしました。

なお、連結中間純利益は、小田原事業所の一部機械設備に関わる減損損失などを特別損失に計上する一方、事業子会社の再編に伴う法人税等調整額や税金費用などを加味しました結果、9億95百万円と、前中間期に比べて4億38百万円（78.7%）の増加となりました。

なお、当中間期の配当金につきましては、前期連結業績を鑑み、誠に申し訳ございませんが、見送らせていただきましたことをご報告申し上げます。

今後の見通しにつきましては、引き続き厳しい経営環境が続くものと想定されますが、当社グループでは、更なる成長に向かって、後述いたします「第一次中期経営計画」を策定し、必達するべく全力を挙げて取り組んでおりますので、みなさま方の倍旧のご指導とご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

平成18年12月



取締役会長  
秋山 寛



取締役社長  
依田 誠

# 第一次中期経営計画(2006年度~2008年度)

当社は、昨年度、構造改革計画に取り組み、経営合理化や効率化を推進した結果、計画目標を達成いたしました。この成果を踏まえ、第一次中期経営計画(2006年度~2008年度)を策定いたし、鋭意取り組んでおります。

## 1. 計画策定に至る背景

経営統合に先立ち、2004年度から2006年度を実行期間とする統合3カ年計画を立案いたしました。計画期間中、鉛等を中心とする主要原材料の高騰など、外部環境の急激な変化に対応するため、2005年度は構造改革計画を策定し、経営効率化、事業構造や組織体制の改革に取り組み、業績の回復を実現いたしました。2006年度は構造改革計画の実績を踏まえ、また当初の統合3カ年計画の諸課題への取り組みを更に推し進めるため、第一次中期経営計画を策定し、実施いたしております。

## 2. 第一次中期経営計画の期間および目標

### (1) 計画期間

2006年4月から2009年3月の3カ年

### (2) 最終年度2008年度損益目標と経営指標

売上高	2,600億円		
営業利益	130億円	営業利益率	5.0%
経常利益	120億円	経常利益率	4.6%

## 3. 重要事業課題

### (1) 企業理念と経営ビジョン

本経営計画の前提として、企業理念と経営ビジョンを次のように定めました。

#### [企業理念]

##### 『革新と成長』

GS YUASAは、社員と企業の「革新と成長」を通じ、人と社会と地球環境に貢献します。

#### [経営ビジョン]

GS YUASAは、電池で培った先進のエネルギー技術で世界のお客様へ快適さと安心をお届けします。

## (2) グループ全体の経営課題

本計画期間を通じて、財務体質の強化、人材育成、総合的な生産性向上を図り、強いグループ経営を実現いたします。特に次の経営課題を重視し、グループ全体で取り組みます。

- ①CSRの推進とコンプライアンス体制の確立
- ②原価経費低減活動の継続
- ③ERP導入拡大と新しい経営管理システムの構築
- ④環境に配慮した鉛リサイクルシステムの確立

## (3) 事業戦略課題

本経営計画目標を実現するために、次の事業戦略課題に取り組みます。

- ①国内自動車電池事業の利益改善  
原材料価格高騰分の価格改定、国内シェア確保、合理化投資の回収
- ②中国・アジア事業の拡大  
中国・アジア市場の販売強化、グローバル供給のための中国・アジア拠点整備
- ③HEV・EV市場への本格的参入  
拡大する新需要確保のための高性能電池の開発、量産技術開発の推進
- ④産業電池電源事業の収益基盤の強化  
機種統合、生産販売拠点統合による合理化、効率化の推進
- ⑤サービス事業の強化  
サービス向上による競争優位の確保、サービスの事業化
- ⑥大型リチウムイオン電池事業の拡大  
世界のデファクトスタンダード製品へ育成
- ⑦有望周辺事業の強化  
成長市場と共存する周辺事業の強化

## (4) 特別プロジェクトチームの設置

グループの経営および事業戦略課題のうち、各事業会社間にまたがる次の5つのテーマについては、特別プロジェクトチームを設置し、迅速に意思決定し実行いたします。特別プロジェクトチームは取締役社長直轄の組織とし、プロジェクトをマネジメントするPMO (Project Management Office)を設置いたしております。

- プロジェクト1 本社と管理間接部門のスリム化
- プロジェクト2 国内自動車電池事業の利益改善
- プロジェクト3 HEV・EV市場への本格的参入
- プロジェクト4 中国・アジア事業の拡大
- プロジェクト5 大型リチウムイオン電池事業の拡大

# 中間連結貸借対照表

平成18年9月30日現在

(単位：百万円)

資 産 の 部		負債および純資産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>	<b>(249,783)</b>	<b>(負債の部)</b>	<b>(172,200)</b>
<b>流動資産</b>	<b>115,045</b>	<b>流動負債</b>	<b>109,268</b>
現金および預金	7,055	支払手形および買掛金	23,532
受取手形および売掛金	53,637	短期借入金	46,554
有価証券	29	コマーシャルペーパー	4,247
たな卸資産	43,307	1年以内償還予定社債	10,000
繰延税金資産	1,707	未払金	14,080
その他	9,764	未払法人税等	701
貸倒引当金	△ 457	繰延税金負債	95
		その他	10,056
		<b>固定負債</b>	<b>62,931</b>
<b>固定資産</b>	<b>134,700</b>	転換社債型新株予約権付社債	900
有形固定資産	84,841	長期借入金	33,765
無形固定資産	3,065	繰延税金負債	5,778
投資その他の資産	46,793	再評価に係る繰延税金負債	4,247
繰延資産	37	退職給付引当金	5,790
		役員退職慰労引当金	236
		その他	12,214
		<b>(純資産の部)</b>	<b>(77,583)</b>
		<b>株主資本</b>	<b>58,220</b>
		資本金	16,052
		資本剰余金	37,891
		利益剰余金	4,360
		自己株式	△ 84
		<b>評価・換算差額等</b>	<b>15,135</b>
		その他有価証券評価差額金	9,089
		土地再評価差額金	6,257
		為替換算調整勘定	△ 210
		<b>少数株主持分</b>	<b>4,227</b>
<b>資産合計</b>	<b>249,783</b>	<b>負債および純資産合計</b>	<b>249,783</b>

(注) 1.記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2.有形固定資産の減価償却累計額

122,490百万円

# 中間連結損益計算書

平成18年4月1日から平成18年9月30日まで

(単位：百万円)

科 目	金 額	
売 上 高		120,750
売 上 原 価		95,708
売 上 総 利 益		25,041
販売費および一般管理費		23,919
営 業 利 益		1,122
営 業 外 収 益		
受取利息および配当金	316	
持分法による投資利益	220	
為替差益	643	
その他の	521	1,702
営 業 外 費 用		
支払利息	1,048	
その他の	676	1,724
経 常 利 益		1,099
特 別 利 益		
固定資産売却益	119	
投資有価証券売却益	65	
その他の	119	305
特 別 損 失		
固定資産除却損	77	
固定資産売却損	1	
投資有価証券評価損	42	
減損損失	698	
事業再編費用	12	
その他の	1,044	1,876
税金等調整前中間純損失		470
法人税、住民税および事業税	1,091	
法人税等調整額	△2,683	△1,591
少数株主利益		125
中 間 純 利 益		995

(注) 1.記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2.1株当たり中間純利益

2円77銭

# 中間単独貸借対照表

平成18年9月30日現在

(単位：百万円)

資 産 の 部		負債および純資産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>	<b>(152,150)</b>	<b>(負債の部)</b>	<b>(69,310)</b>
<b>流動資産</b>	<b>67,125</b>	<b>流動負債</b>	<b>43,296</b>
現金および預金	103	短期借入金	23,562
売掛金	285	コマーシャルペーパー	4,000
たな卸資産	29	一年以内償還予定の社債	5,000
関係会社短期貸付金	65,297	一年以内返済予定の長期借入金	9,958
未収入金	1,206	未払金	690
その他	203	未払法人税等	12
<b>固定資産</b>	<b>84,987</b>	その他	72
有形固定資産	1,014	<b>固定負債</b>	<b>26,013</b>
無形固定資産	98	転換社債型新株予約権付社債	900
投資その他の資産	83,874	長期借入金	25,006
繰延資産	37	役員退職慰労引当金	102
		繰延税金負債	4
		<b>(純資産の部)</b>	<b>(82,840)</b>
		<b>株主資本</b>	<b>82,833</b>
		資本金	16,052
		資本剰余金	62,373
		利益剰余金	4,470
		自己株式	△ 62
		評価・換算差額等	6
		その他有価証券評価差額金	6
<b>資産合計</b>	<b>152,150</b>	<b>負債および純資産合計</b>	<b>152,150</b>

(注) 1.記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2.有形固定資産の減価償却累計額

3,891百万円

# 中間単独損益計算書

平成18年4月1日から平成18年9月30日まで

(単位：百万円)

科 目	金 額	
営 業 収 益		2,873
販売費および一般管理費		1,137
営 業 利 益		1,736
営 業 外 収 益		
受取利息および配当金	581	
そ の 他	29	611
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	388	
そ の 他	83	471
経 常 利 益		1,876
特 別 損 失		
事業再編費用	12	
そ の 他	90	103
税引前中間純利益		1,772
法人税、住民税および事業税	△ 35	
法人税等調整額	185	150
中 間 純 利 益		1,622

(注) 1.記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2.1 株当たり中間純利益

4円52銭

## トピックス

### センサー機能付き高性能自動車用バッテリー「SENSIA (センシア)シリーズ」を新発売

(株)ジーエス・ユアサ バッテリーは、バッテリートラブルを未然に防止することを可能にしたセンサー機能付き高性能自動車用バッテリー「SENSIA (センシア)シリーズ」5形式10タイプを、平成18年10月から新たに発売いたしました。

本製品はコンディションチェックユニットを搭載しており、バッテリーの状態を常時診断し、異常と判定した場合にはエンジン停止後にLEDの光とアラーム音

で異常を知らせるほか、エンジン始動時に電圧の変化パターンを学習、記憶する機能により、より高精度な診断を可能にしております。また、補水のいらぬ二重蓋構造、再生素材の積極的な活用などによる環境に配慮した設計、高始動性能、長寿命などを実現し、36ヶ月または累計走行距離8万kmの補償付きとしております。



### 世界初 高ワットのセラミックメタルハライドランプ「エコセラII」680Wを新発売

(株)ジーエス・ユアサ ライティングは、優れた経済性と光学特性を有するセラミックメタルハライドランプ「エコセラII」の新シリーズとして、高ワット品では世界初となる680Wを開発し、平成18年8月から新たに発売いたしました。

工場や体育館、倉庫、コンコースなどで広く普及している700Wの水銀灯安定器にて点灯が

でき、既設の安定器を交換せずに従来の水銀灯などから容易に置き換えることが可能となっております。また、高ワット用に最適化した新設計の一体形発光管を採用すること、照度アップや演色性アップによる照明環境の向上や省エネルギーが可能になります。



# 会社の概要

平成18年9月30日現在

商号	株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション GS Yuasa Corporation
事業目的	傘下のグループ企業全体の経営戦略を策定、統括し、グループの企業価値の最大化を図る。
設立	平成16年4月1日
資本金	16,052,697,076円
発行済株式総数	363,808,922株
株主数	38,623名
本社所在地	京都本社 京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地 電話 (075)312-1211 東京本社 東京都港区芝公園二丁目11番1号 電話 (03)5402-5800
ホームページアドレス	<a href="http://www.gs-yuasa.com/jp">http://www.gs-yuasa.com/jp</a>
上場証券取引所	東京証券取引所 大阪証券取引所

# 役員

平成18年9月30日現在

取締役会長 (代表取締役)	秋山寛
取締役社長 (代表取締役)	依田誠
取締役副社長 (代表取締役)	上田温之
専務取締役	中村正昭
常務取締役	前野秀行
常務取締役	小野勝行
常務取締役	椎名耕一
取締役	北村昇
監査役(常勤)	楠山俊輔
監査役(常勤)	植村茂夫
監査役(常勤)	清水正
監査役	藤井勲

## 株主メモ

決 算 期	3月31日
配当金受領株主確定日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒541-0041 大阪市中央区北浜二丁目2番21号 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店 証券代行部 電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 本店および各支店 日本証券代行株式会社 本店および各支店